

第4期第1回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 平成30年2月1日（木曜日） 午後3時から午後5時まで

開催場所 松本市役所 東庁舎4階 第2委員会室

出席者（敬称略）

委員 廣瀬豊（委員長）、平林大喬（副会長）、姥貝勇、大澤好市、
木次由美子、草深邦子、倉澤聡、小林修、近藤博志、角野園恵、
降旗都子、古幡安志、松澤幹夫、宮下鉄、宮林孝子
（欠席 赤沼留美子、佐藤佳子）

事務局 地域づくり部長 宮川雅行
地域づくり課 課長 西澤広幸、協働推進担当課長 田村明彦、
課長補佐 胡桃澤伸一、課長補佐 廣田圭男、
主事 白澤隆文、主事 上條友里香

1 開会

（進行 事務局 地域づくり課長 西澤）

2 あいさつ

（地域づくり部長 宮川）

3 地域づくり市民委員会について

（事務局 上條）

- ・松本市地域づくり市民委員会設置要綱に基づき委員会の概要を説明

4 自己紹介

- ・各委員及び事務局による自己紹介

5 委員長・副委員長の選出

- ・要綱第5条2項に基づき、次のとおり選出

委員長 廣瀬豊委員

副委員長 平林大喬委員

6 正副委員長あいさつ

（廣瀬委員長）

- ・第4期の委員会の中でも、皆さんが普段思っていること、考えていること、気になっていることを、どんどん発表して議論できるようにしてい

きたい。

(平林副委員長)

- ・ 廣瀬委員長をサポートしながら、皆さんと共に進めていきたい。

7 会議事項（議長 廣瀬委員長）

(1) 松本市の地域づくりについて

【事務局説明】

(事務局 廣田)

- ・ 松本市の地域づくりについて、別冊1「松本市が進める地域づくり」に基づき説明

【質疑等】

- ・ なし

(2) 委員会のこれまでの活動経過

【委員長説明】

(廣瀬委員長)

- ・ 別紙「地域づくり市民委員会の活動経過」に基づき説明

【質疑等】

- ・ なし

(3) 第4期の活動方針（案）について

【事務局説明】

(事務局 上條)

- ・ 資料に基づき説明

【結論】

- ・ 第4期の活動方針は、概ね事務局案のとおりとし、本日各委員から出た話を含めて議論を進めていく。

【質疑等】

(廣瀬委員長)

- ・ 改めて自己紹介を兼ねて、皆さんの思いを聞かせていただきたい。

(宮林委員)

- ・ 自分の地区では、各団体が協力しながらやっている。
- ・ 自分の町会の例を挙げると、新しい道路が開いたことにより、空き家が分譲されて新しい家が3軒建ち、地区の様子が変わった。新しい住

民が入って世帯数も増え、前から住んでいる人も新しい住民の安心して住める街にしていかなければと意識するなど、非常に良い傾向になってきた。考え方も変えていかなければと思っている。

(宮下委員)

- ・自分が住んでいる町会は、サラリーマン世帯が多い分譲住宅地のため、世代交代が難しく、高齢化が進んでいる。自分も不安を抱えている。高齢者を地域で支えるというのは、大きな課題で、地域の活動はこれからもっと大変になってくる。

(松澤委員)

- ・JAの職員のため、地域づくりの問題は、かなり身近に感じている。「食と農を育み、みんなで笑顔があふれる地域にしよう」というのが、6カ年のビジョンである。
- ・4年程前から、地域のリーダーを養成するために協同活動みらい塾を行っている。ロの字型の会議をやめ、ワークショップ方式をとり、少人数で意見を言えるようにしている。最初は違和感があったが、かなり活発になってきた。
- ・JAでも「協働」という言葉を使っている。商工会議所と連携して、商工農連携のようなものを模索するなど、地域づくりに役立てるといいうことも常に考えている。

(古幡委員)

- ・社会福祉協議会では、平成28年度から松本市と一緒に第三次地域福祉計画を策定している。地区に入っていくと、地域づくりの課題と地域福祉の課題は切り離せないため、両方を一緒に考えて、課題解決に向けた計画を進めている。福祉の面から、色々な提言・発言をしたい。

(降旗委員)

- ・イオンモールができるに当たって、勝手に作られては困るため、色々な活動をした。私自身は平成16年から公民館報の編集委員を務めているが、情報を出しても住民に受け取ってもらえない、また住民の声が拾えないということを感じていた。住民の声を拾わないと地域は何も動かないのではないかとということで、5年前に地域住民にアンケートを取ったのが、私のまちづくり活動の始まりだった。
- ・多くの方は、思っていることを地域に伝える術がなく、地域の側でも

拾い上げて議論をする場もない。地域づくりのためには、公民館とかセンターを中心に、昔で言えば井戸端会議的な、そういう場が沢山できることが必要。

(角野委員)

- ・私は福祉ひろばのサポーターをやっている。一住民としてふれあい健康教室に参加し、参加者の声を拾って、それからひろばで何ができるかと考えている。
- ・自分の住む地区では、ふれあい健康教室に男性の参加が多い。町会の役員さん達がそういうところにもうちちょっと参加してくださると、住民の声が聞こえるのではないか。住民の声が聞けて、参加する自分も楽しいと思える、そういう場を作っていきたい。

(近藤委員)

- ・少子高齢化というのは、地域の経済活動にも影を落としている部分があり、後継者がいなくて昔からの店が閉まったりという問題があるが、若い人が新しいことを始めるパワーもあり、見逃せない。商工会議所としては、事業継承と新規事業の展開を、何とかサポートしようとしている。
- ・住んでいる地域の町会活動に関しては、働く世代の方は負担を感じ、高齢者の方は健康問題などがハードルとなっている人もいる。
- ・みんなが笑顔で参画できるヒントがないか、皆さんの事例を聞きながら、自分でも意見をまとめていきたい。

(小林委員)

- ・町会長になって4年目になる。
- ・日本人は、出る杭は打たれるという集団組織の雰囲気の中、控え目を心がけるうちに、考える事を忘れてしまったのではないか。それでは能動性も主体性も出てこない。組織も社会も腐っていく。
- ・それを打開する現場は、国や自治体ではなく、住民に一番身近な町会、課題山積みの町会にあるのではないか。全国津々浦々のそんな町会・自治会からこの国を元気にできる可能性がある。
- ・そんな思いの中、この委員会に応募した。

(倉澤委員)

- ・地域づくりは、問題設定自体が出来ていないのではないか。対症療法

で現状維持が目的で、その現状維持が出来ないので、何も出来ないでしょうという雰囲気が広がっている。これからは、「地区がなくなる」ということが確実に出てくる中で、あきらめて違う選択肢を探すこと自体が課題ということになる。

- コミュニティは中をどうするかということだけではなく、中を考えるためには外とつながるといことが大事。コミュニティは外に開くという構図を生み出し、どんどん交流するような開き方ができていくと面白い。

(草深委員)

- 民生児童委員協議会には、今13人の女性の地区会長がいて、ただ会議に出るだけではいけないということで、女子会を発足させた。会議が終わった後、みんなでお茶を飲みながら、忌憚のない意見とか気持ちを話しており、各地域の意見交換が出来つつある。
- 自分の地区では、ふれあい健康教室になかなか男性が出てくれないため、井戸端クラブというものが発足した。何も型を作らず、好きに来て好きに帰っていい、お茶菓子だけ出すから、好きなことを話す場にした。すると、色々意見が出る。そこで拾った意見を地域づくりの方に伝えている。そういう意味では、この頃は住民の声を拾ってきていると思う。参加者も増えてきた。

(木次委員)

- 健康づくり推進員という立場で公民館長、センター長、ひろばのコーディネーターと話をする機会がたくさんあるが、会議や行事に出てくる人の声は聞こえても、出て来られない人、出て行くのは面倒とってしまう人達のちょっとした不満というのは聞こえて来ないと感じている。そういう声をどうやって拾い集めるのかが問題。あまりアイデアは浮かばないが、この委員会で一緒に探していきたい。

(大澤委員)

- 自分は、現職の単位町会長で、10年近くやっている。80世帯のおじいちゃんから孫の世代まで、住民を全部把握している。
- 今心配なのは、二世帯同居していたのが、息子や娘が外に家を建てて出てしまうという状況。息子や娘の家が近くても、町会長の訪問が必要なケースがある。
- ふれあい健康教室などに男性が集まらないというのはそのとおり。促

されて出席しても、一緒にゲームを楽しんだりはしない。

- ・大上段に地域活性化と振りかぶってもだめで、一番簡単で大切なことは、向こう三軒両隣。隣近所の人と仲良くお茶飲みながら色々な話をするのが大事。

(姥貝委員)

- ・女性の町会長や公民館長は、素晴らしい活動をしている。サロン活動にしても、民生委員や健康づくり推進委員、あるいは自分の女友達をうまく巻き込んでいる。子育て中の母親も巻き込んでいるので、行事には子どもまでついてくる。
- ・これからの地域づくりは、女性の方にいかに力を貸してもらえるか、もっと言えば、女性が町会や地域づくりに思いを寄せるような仕掛け作りみたいなものがあれば、徐々に明るくなっていくと思う。

(平林副委員長)

- ・皆さんそれぞれの立場で苦慮されているが、それぞれの立場の方向でやればよいのではないか。
- ・伝統行事を守って、人が大勢集まってくるような方向を舵取りしていけばよい。
- ・自分の地区では、ご機嫌会というのがあって、町会で酒と焼き鳥と焼きそばを出して、みんな集まってただ色々な話をする。そうすると色々な話が出てくる。

(廣瀬委員長)

- ・地域づくり市民委員会は、皆さんの意見を集約しようということではなくて、様々な意見を出し合い、悩んで議論をして話し合っていくということが基本である。
- ・大学で開催する地域フォーラムのチラシを配らせていただいた。こうした活動を通じて、先ほど倉澤委員がおっしゃったような外とのつながりもできる。学生が卒業しても関われる、そんな松本市にしたいと思う。
- ・今年度の活動は、大筋の内容は事務局案のとおりとし、皆さんに話していただいた内容を含めて進めていきたい。

(4) 今後のスケジュール

【事務局説明】

(事務局 上條)

- ・資料に基づき説明

【質疑等】

- ・なし

(以上)